

2017年09月9日

## 日本子ども安全学会第4回大会 開会挨拶

大会長 小佐井良太 愛媛大学教授

本日、日本子ども安全学会・第4回大会の開会にあたり、大会長として一言、ご挨拶申し上げます。

第4回大会のテーマは、「子どもの安全の位置づけを問う」です。お手元のプログラムでもご確認いただけますように、本日は基調講演3件、実践・研究報告4件が予定されています。いずれの講演・報告も、今日の日本の社会における「子どもの安全」の位置づけを問う上で、多彩な専門分野の観点からなされる貴重な検討・分析・実践の成果や課題が扱われる予定です。こうした機会をご出席のみなさまと共有できますことをとても意義深く、また率直にうれしく感じます。

さて、今大会のテーマ「子どもの安全の位置づけを問う」との関連で一言申し上げますと、私たちは今、時代の大きな転換点を迎えつつあるのだと思います。「子どもの安全」をめぐる社会変革が、今こそ、具体的な形となって実現されなければならない局面にあるのではないのでしょうか。「子どもの安全」に関して、今、社会は確かに、変わりつつあると感じています。もちろん、言うまでもなく一方では、最近の報道で確認されるだけでも、子どもたちが犠牲となる痛ましい事件・事故が、残念ながら繰り返されている現状があります。事件・事故をめぐる情報が共有されず、再発防止のための手立てが徹底されない中で同種の事件・事故が続発していると感じざるを得ない報道に接するたび、痛ましさに胸を締め付けられると同時に、正直、社会の「変わらなさ」に対する憤りの念や空しさも感じてしまいます。しかし他方では、「子どもの安全」を本気で考え、さまざまな専門性や現場での取組みをベースとして、現状を変えるべくさまざまなチャレンジが力強く行われており、メディアでの報道にも力を得て、「子どもの安全」を見直し、確保するための取組みが社会の中で着実に広がっていること、また、人々の共感や支持、参画が確実に広がっていることを感じます。本日この後の基調講演や報告も、まさにそうした取組みの現状の成果を示すものに他なりません。

改めて私たちは、本日この大会を契機に、今の日本社会における「子どもの安全」の位置づけを問い直すとともに、これからの将来における「子どもの安全」の位置づけを、社会に対して提起しなければならないと思います。この社会はきっと変えられる、こうした思いはこの間、例えば、犯罪被害者の権利を求める運動や飲酒運転など悪質重大な交通事犯の根絶を求める運動に取り組んできた人たちが抱き続けた思いです。それぞれの運動や現状には、まだまだ多くの課題や問題が残されているものの、10年、20年のスパンで見れば、日本の社会は確実に変化しています。「子どもの安全」についても、さまざまな困難や課題はありますが、今、社会は着実に変わりつつありますし、この変化を継続し確実なものにして行くための各分野・現場での取組みが今こそ、求められています。

最後に、本日のこの大会が、本日ここにお集まりのみなさまの、これから1年間の活動・取組みの「糧」として実り多いものとなることを願って、ご挨拶とさせていただきます。